

# 強者の戦略

2025年度 京大日本史 第4問の(2) [問題編]

今回は2025年度の京都大学の第4問の(2)「第二次世界大戦末期から1970年代初めの沖縄の政治状況」を解説します。第4問(200字論述)で現代史の出題は2014年度の「2つのニクソンショックの内容と日本の対応」以来です。今回は沖縄戦から沖縄返還とその後までの時期に沖縄の人々がどのような政治状況下に置かれたか、どのように向き合ったかについて説明しなければならない問題となっています。ぜひチャレンジしてください。

## IV 日本史探究問題

次の問(1)・(2)について、それぞれ200字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (2) 第二次世界大戦末期から1970年代初めまでの間、沖縄の人々がどのような政治状況の下に置かれ、どのようにそれに向きあつたかを説明せよ。

2025年度 京大日本史 第4問の(2) [解説編]

「第二次世界大戦末期から1970年代初めまでの間」とありますので、「第二次世界大戦末期(沖縄戦のころ)」「アメリカ軍の直接軍政下」「サンフランシスコ平和条約調印後のアメリカ施政権下」「1970年代初めまで(沖縄返還とその後)」と四つの時期に分けて、それぞれの時期に沖縄の人々がどのような政治状況の下に置かれ、どのようにそれに向きあつたかを見ていきましょう。

### ①第二次世界大戦末期(沖縄戦のころ)

1945年3月26日のアメリカ軍の慶良間諸島上陸から始まり、4月1日にはアメリカ軍が沖縄本島にも侵攻し、主要な戦闘は沖縄本島で行われた。沖縄守備軍はアメリカ軍を沖縄に釘付けし、国体護持・本土決戦に備えることが目的であったため、多くの島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。鉄血勤皇隊とよばれた男子学徒隊や、ひめゆり部隊などの女子学徒隊の犠牲者も含まれている。

### ②アメリカ軍の直接軍政下

1945年6月23日、沖縄での日本軍の組織的戦闘は終了した。沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本侵攻のための拠点となった。終戦後、日本はGHQによる間接統治下に置かれたが、沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ続けた。

# 強者の戦略

## ③サンフランシスコ平和条約調印後のアメリカ施政権下

サンフランシスコ平和条約が発効して、約7年間の連合国による占領が終了し、日本は主権を回復したが、沖縄は日本から分離され、アメリカの施政権下に置かれた。日本国憲法は適用されず、米軍基地の建設が強化され、基地関連の事故や環境問題に苦しめられた。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカのベトナムへの出撃・後方支援基地となった。ベトナム特需で経済的に潤った一方、戦争への加担者であるとみなされ、また、基地関連の事件や事故もあり、基地の撤去を求める反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まった。

## ④1970年代初めまで（沖縄返還とその後）

1969年11月、日米首脳会談において、長年県民が求めてきた日本復帰が正式に決まった。1972年5月15日、27年間に及んだアメリカ統治が終わりを告げ、沖縄は祖国復帰を果たした。沖縄返還以降、経済発展と社会基盤の整備が進む一方で、アメリカ軍基地の約7割が沖縄に集中し、県民からは不満の声が上がっている。

これらを割愛するところは割愛しつつ、つなげてみましょう。

第二次世界大戦末期、沖縄戦では多くの島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。沖縄での日本軍の組織的戦闘は終了後も沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本侵攻のための拠点となった。終戦後、日本はGHQによる間接統治下に置かれたが、沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ続けた。日本の主権回復後も、沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地の建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカのベトナムへの出撃・後方支援基地となり、ベトナム特需で経済的に潤った一方、戦争への加担者であるとみなされ、また、基地関連の事件や事故もあり、基地の撤去を求める反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まった。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。（351字）

ここから200字にけずっていきます。

第二次世界大戦末期、沖縄戦では多くの島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。沖縄での日本軍の組織的戦闘は終了後も沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本侵攻のための拠点となった。終戦後、日本はGHQによる間接統治下に置かれたが、沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ続けた。日本の主権回復後も、沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地の建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカのベトナムへの出撃・後方支援基地となり、ベトナム特需で経済的に潤った一方、戦争への加担者であるとみなされ、また、基地関連の事件や事故もあり、基地の撤去を求める反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まった。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。



# 強者の戦略

第二次世界大戦末期、沖縄戦では多くの島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後も沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本の主権回復後も、沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地の建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカのベトナムへの出撃・後方支援基地となり、ベトナム特需で経済的に潤った一方、基地関連の事件や事故もあり、基地の撤去を求める反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まつた。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。(256字)

「沖縄の人々がどのような政治状況の下に置かれ、どのようにそれに向きあつたか」です  
ので、沖縄が経済的に潤つたくだりなどもけずつてしまいましょう。

第二次世界大戦末期、沖縄戦では多くの島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後も沖縄はアメリカ軍の直接軍政下に置かれ続けた。日本の主権回復後も、沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地の建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカのベトナムへの出撃・後方支援基地となり、ベトナム特需で経済的に潤つた一方、基地関連の事件や事故もあり、基地の撤去を求める反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まつた。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。



第二次世界大戦末期、沖縄戦では島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後もアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本の主権回復後も沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカの出撃基地となり、基地関連の事故もあり、反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まつた。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。(208字)

あともう少し…

第二次世界大戦末期、沖縄戦では島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後もアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本の主権回復後も沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカの出撃基地となり、基地関連の事故もあり、反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まつた。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが残り、県民からは不満の声が上がっている。

存続することとなった。



# 強者の戦略

第二次世界大戦末期、沖縄戦では島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後もアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本の主権回復後も沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカの出撃基地となり、基地関連の事故もあり、反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まった。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが存続することとなった。

(199字)

ドヤ（笑）

2025年度 京大日本史 第4問の(2) [解答例]

第二次世界大戦末期、沖縄戦では島民を巻き込んでの地上戦となり、多数の犠牲者を出した。終戦後もアメリカ軍の直接軍政下に置かれ、日本の主権回復後も沖縄はアメリカの施政権下に置かれ、基地建設が強化された。ベトナム戦争中、沖縄はアメリカの出撃基地となり、基地関連の事故もあり、反戦・平和運動や祖国復帰運動が高まった。1970年代初めに沖縄は祖国復帰を果たしたが、アメリカ軍基地の多くが存続することとなった。

(199字)

皆さん、ここまで読んで頂いてありがとうございます。皆さんのが共通テストや二次試験で全力を出しきれるよう、祈っております。

やれることは全部やりきりましょう！